巻 頭 言

大学教育の DX 化と初年次における効果的な情報リテラシー教育の実現に向けて

インフォメーションテクノロジーセンター副所長
社会安全学部准教授　河　野　和　宏

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が日本で流行してから 2 年が経過し、多くの大学では、遠隔方式での授業も提供しつつも対面で授業を行うようになってきている。文部科学省が2022年 6 月 3 日に公開した「大学等における令和 4 年度前期の授業の実施方針等に関する調査及び学生の修学状況（中退・休学）等に関する調査の結果について（周知）」によると、調査対象となった国公私立大学（短期大学を含む）および高等専門学校1,165校のうち、半分以上を対面授業とする予定とした大学等は1,157校、7 割以上を対面授業とする予定とした大学等は1,116校と、前者が全体の99.3%、後者が95.8%を占める結果となっている。さらに、この調査からは、全面対面、つまりコロナ禍以前の方針で実施予定とした大学等が646校と、半数を超える55.5%を占めていることも明らかとなっており、大学の授業実施形態という観点から見れば、COVID-19流行前の日常が戻りつつあるといえる。

一方、コロナ禍により強制的に遠隔授業を実施する運びになったものの、対面授業にはない遠隔授業の魅力に気づき、COVID-19の影響が少なくなっても遠隔授業をそのまま提供する動きも出てきている。本学でも、2021年 7 月に制定された遠隔授業運用要領およびオンデマンド配信授業実施ガイドラインをふまえ、授業科目の特性に応じて、遠隔授業の一つであるオンデマンド配信授業を学部ごとに実施できるようになった。これまでは履修者の人数が多くリスク回避のために行わざるをえなかった遠隔授業を、教育の質を向上させるために積極的に行おうとする取り組みは、まさに教育の DX 化（デジタル・トランスフォーメーション）の代表例といえよう。

こうした DX の動きに対応していくため、IT センターの役割はより重要になってくる。筆者が特に気にしているのは、教職員・学生といったユーザへのサポート体制であり、さまざまな IT システムに対するマニュアルや Q&A の整備はもちろんのこと、そうした IT システムを適切に使いこなせるよう、ユーザの情報リテラシーを向上させる取り組みを強化していく必要があると感じている。

そこで IT センターでは、2021年度に、各学部の情報リテラシー教育の現状を共有しつつ、IT センターとして学生の情報リテラシー向上にどのような形で貢献すべきかを検討するた

め、各学部における初年次の情報リテラシー教育の状況を把握するアンケート調査を実施した。具体的な調査内容や結果の概要は別稿に譲るとして、教員視点からはカリキュラム上での時間不足や情報リテラシーを扱う専門教員の不足、学生視点からは学生間のリテラシーの差、といった課題があること、それら課題の解決のためにITセンターには情報リテラシーを学ぶ動画やe-ラーニング・出張講義などを求めていることがわかった。

この調査結果を踏まえ、2022年3月30日に、情報リテラシー向上のための動画コンテンツを8本作成・公開している。コピペ・引用やメール・スマホマナーといった一般的な大学生活に関わる内容のものから、最近問題となることが多いSNS上での著作権侵害や誹謗・中傷、パスワード管理に代表される基礎的なセキュリティの内容まで、これからITシステム・サービスを利用していくうえで最低限知っておいてほしいモラルやリテラシーが中心となっている。基本的には5分前後の動画とすることで手軽に利用できるようにしている。利用シーンとしては、学生の自習だけでなく授業利用も想定しており、たとえば専門教員がおらず説明が難しい内容をこれらの動画でサポートすることを考えている。現在は、動画の視聴状況を分析しつつ、アンケートから得られたさまざまな知見もふまえ、動画コンテンツの拡充や幅広く利用していただくための施策を考えている。

これらの調査や動画作成・公開にあたっては、ITセンターに関係する教職員だけでなく、本学の教職員のみなさまには多大なご負担をおかけした。心より感謝を申し上げる次第である。これからも、学生だけでなく教職員も含め、本学の関係者全員が十二分にITシステムを利活用できるよう、必要なサービスを提供しつつ、皆様のリテラシー向上に努めていく所存である。今後も引き続きITセンターにご協力をお願い申し上げる次第である。